

事業所名		共生型放課後等デイサービスふじの家段原				支援プログラム（参考様式）		作成日		2026 年		1 月		30 日	
法人（事業所）理念		障がいがあってもなくても、子どもも大人も、誰もが支え合って「ともに生き、ともに成長する」													
支援方針		共生型施設として、すべての人が多様な個性をもって、自分らしく社会に参加し、最大限に力を活かす													
営業時間			9 時	30 分	から	17 時	0 分	まで	送迎実施の有無		あり				
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	利用児童の健康観察を行い、健康状態の把握に努めます。健康な心と体を育て、健康で安全な生活が出来るよう支援を行います。体調不良等必要時には、看護師による対応も可能です。基本的な生活スキルの獲得 清潔な身の回りや食事、衣類の着脱、排泄などの基本的な生活技能を獲得できるよう支援します。利用児童一人ひとりの障がいへの特性に配慮して見通しを持って取り組める工夫をすることで時間の認識ができるよう環境を整えます。													
	運動・感覚	利用児童の個々の心身の状況に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作の改善及び習得、筋力の維持・向上を図ります。また、一人ひとりの身体状況に合わせて、活動時間中に適切な補助を行うことで、姿勢の保持や移動手段を確保します。つかむ・ひっぱる・つまむ・はめる・はる・とおす・ぬる・描く・切るに関するプログラムを実施し、手の巧緻性を育みます。													
	認知・行動	職員が利用児童一人ひとりの認知機能の特徴を理解・把握するよう努め、利用児童が自分自身に入ってくる情報を適切に理解し処理できるよう支援します。構造化された療育スペースは、それぞれの発達状況に応じた認知・行動ができるよう配慮しており、活動中、自律的に行動できるよう促します。創作やクッキングなどの活動を通じて、利用児童が視覚的・触覚的に物の形などが変化していくことを体感し、認知機能の向上を促進します。散歩等の外出活動により、季節の移り変わりを体感したり、状況の変化を捉えられるよう支援します。													
	言語コミュニケーション	利用児童の特徴やニーズに合わせて、絵カードや文字を使用し発達に応じたコミュニケーションスキル獲得を目指します。集団活動や個別療育プログラムで、相手の意図を理解することや、自分の想いや意思・考えを他者へ伝えることができるよう支援します。													
	人間関係社会性	グループ活動や集団活動を通して、ルールを守ること・友達と協力すること・順番を守ること・譲り合うこと・失敗や負けを受け入れられることなど、他者とともに生活していくために必要なスキルを身につけていきます。また、共生型施設の強みを活かし、高齢者等の学校生活等ではかかわることの少ない年代の人とのかかわりの中で、多様な個性に触れる機会を持ち、幅広い社会性を育みます。													
家族支援		利用時の支援プログラムの実施後の様子や、他者との関わりの様子など、外での様子を家族へフィードバックします。生活の心配ごとや困りごと、成長過程に応じた自宅での対応などを保護者と共に考え支援します。							移行支援		必要に応じ、児童発達支援、学校や学童保育、卒業の就労先等との連絡調整・情報共有を行い、円滑に移行できるよう支援を行います。				
地域支援・地域連携		通学先の学校や他事業所と連携します。地域の放課後児童クラブとの交流を行います。							職員の質の向上		年間計画に基づき、計画的に全職員への研修を実施します。併せて、積極的な外部研修への参加を推奨します。また、毎月の定例会議にて利用児童の情報共有を行い、支援方法の統一を図ります。				
主な行事等		避難訓練（年2回以上）、初詣（1月）、節分（2月）、お花見（4月）、外出活動（5月）、七夕（7月）、夏祭り・プール遊び（7月、8月）、共同制作（9月）、ハロウィン（10月）、クリスマス会（12月）、卒業式（3月）、誕生日会・おやつクッキング（毎月）													